

常用
简明日语词典
デイリーコンサイス
国語辞典

第3版

SANSEIDO'S
DAILY
CONCISE
DICTIONARY

佐竹秀雄
三省堂编修所 编



上海外语教育出版社

SHANGHAI FOREIGN LANGUAGE EDUCATION PRESS

常用
简明日语词典
中国語辞典

第2版

DA
CONCISE
DICTIONARY

佐竹秀雄

三省堂編修所 編



上海外语教育出版社
SHANGHAI FOREIGN LANGUAGE EDUCATION PRESS

图书在版编目 (CIP) 数据

常用简明日语词典(第3版)/(日)佐竹秀雄,
三省堂编修所编. —影印本. —上海: 上海
外语教育出版社, 2004

ISBN 7-81095-347-8

I. 常… II. ①佐… ②三… III. 日语—词典
IV. H366

中国版本图书馆CIP数据核字(2004)
第079455号

出版发行: **上海外语教育出版社**

(上海外国语大学内) 邮编: 200083

电 话: 021-65425300 (总机)

电子邮箱: bookinfo@sflap.com.cn

网 址: <http://www.sflap.com.cn> <http://www.sflap.com>

责任编辑: 赵丽君

印 刷: 上海市印刷七厂

经 销: 新华书店上海发行所

开 本: 787×1092 1/60 印张 14.5 字数 1903 千字

版 次: 2004 年 12 月第 1 版 2004 年 12 月第 1 次印刷

印 数: 5 000 册

书 号: ISBN 7-81095-347-8 / H · 094

定 价: 25.00 元

图 字: 09-2003-447 号

本版图书如有印装质量问题, 可向本社调换

出版前言

日本三省堂的《デイリーコンサイス国語辞典》对于我国的读者来说并不陌生。1999年，本社为了满足广大读者的需求，引进出版了该词典，中文名为《常用简明日语词典》。该词典因具有信息量大、实用性强、功能齐全、便于携带等诸多优点而获得了我国广大读者的喜爱。

为了适应社会的发展，更好地反映《デイリーコンサイス国語辞典》的新面貌，三省堂编修所对其进行了修订。第3版的修订原则仍依据《デイリーコンサイス国語辞典》的编写宗旨，目的是使其更加完善，真正成为一部使用方便、实用性强的工具书。

第3版的修订，集中在增、删、改三个方面。为了达到增词不增页，在增加新词语的同时也删去一些过于陈旧的词语，并修改了一些有变化、有发展、在词义和用法上需要改动或补充的词条。

本词典不仅适用于一般的日语学习者，而且对日语工作者来说也是一部使用方便、具有参考价值的工具书。其主要特点如下：

1.收词量大。所列词条为7万，以现代生活中的常用、基础词汇为主，同时

收录了近年来出现的新词以及经过时间考验已经固定下来的外来语。

2.功能齐全。词条标有声调、词性、汉字等等。

3.释义简洁、明了、确切。一词多义时，标明原义与派生义的差异，以利于读者更准确地掌握该词的意义和用法。

4.文字标记规范。对日语汉字作了详尽的标识，区别常用汉字与非常用汉字；当一个词语有几种汉字写法时，采用了标准标记与参考标记，为读者查阅汉字书写法提供了极大方便。

5.体例编排新颖，富有特色。为了节省篇幅，采用了以符号代替文字表示方法，体现了“简明”这一特色。

本词典虽然是日文版，但其释义浅显易懂，相信具有初、中级日语水平的读者都能运用自如，它一定能成为广大读者的常用工具书。

上海外语教育出版社

ま え が き

『デイリーコンサイス国語辞典』が誕生してから10年が経過した。高機能・高密度の内容を小型の判型に収め、実用性を最大限に追求した本辞典は、幸いにして多くの読者からご支持をいただいた。その後、他社からも同じ判型の国語辞典の刊行が相次ぎ、本辞典は、小型携帯版横組み国語辞典という新しいジャンルの嚆矢となったと自負している。

初版刊行後10年の間に、社会状況は大きく変化した。地球規模の人や物の交流が活発に行なわれるようになり、広範な交流を支える基盤となる情報技術も飛躍的に発展した。社会のネットワーク化が急速に進み、インターネットがビジネスや研究の場面ばかりでなく家庭にも普及してきている。本辞典も携帯電話によるインターネット接続サービスに搭載されるという、10年前にはまったく考えられなかった新しい形態にも対応することとなった。

人と人との交流が滞りなく行なわれるためには、正確な意思疎通が必要不可欠となる。変化の激しい現代において、言葉によるコミュニケーションの担うべき役割は重みを増し、実用性にすぐれた辞典への要望が高まっている。

この重要性を鑑み、第3版の改訂に当たって、本辞典編集の原点であるところの、使用者の立場にたって有用な情報をわかりやすく呈示し、真に使いやすい実用性にすぐれた辞書を目指すという基本的な立場を再度確認し、見直しを行なうこととした。

一般に、辞典は改訂のたびに項目が増補されてページ数が増える傾向があるが、携帯性や扱いやすさを重視して現行のページ数を維持することを方針とした。

項目の見直しについては、現時点で最新、最適の項目を収録するという立場から、必要な項目を増補する一方で、不要と判断した語を削除した。

より見やすく明るい紙面の実現を目指し、第2版の途中から2色刷りを採用したが、第3版でもこの方針を継続した。

解説を付すにあたっては、初版以来の、簡潔・明快・的確という方針を堅持した。

また、差別的なニュアンスをもって使われる言葉については初版から一貫して注記を施している。社会状況の変化に応じ現在の時点で必要な注記を補うように努めた。今後も読者の方々

のご批判をおおいでさらに改善をはかる努力を続けていきたい。

国語辞典の大きな役割のひとつである表記情報の面でも、表記欄に標準表記・参考表記を明示して、日本語の適切な表記を知りたいという読者の要求に対応するようにした。第3版では標準表記にアルファベット表記が増えているが、これも表記の実態を反映した結果である。

以上のような編集方針のもとに第3版の改訂にあたった。

佐竹秀雄先生（武庫川女子大学言語文化研究所）には、編集方針の検討から中心となって進めていただいた。あわせて編集にご協力いただいた先生方のお名前をあげて深甚の感謝の意を表する。（敬称略）

岡 優子

木川 行央

小林 澄子

佐竹久仁子

ここでいちいちのお名前をあげることはできないが、照合、校正などの編集にかかわる地道な作業にご協力いただいた多くの方々に御礼を申しあげる。組版・印刷・製本を担当していただいた方々にも謝意を表したい。

この第3版は、多くの読者の方々から寄せられた貴重なご意見・ご要望を糧として結晶したものである。版を重ねるたびごとに常に「最新」の携帯版国語辞典として読者の座右に置かれることを目指し、今後もひきつづき内容の充実をはかっている。

2000年8月

三省堂編修所

凡 例

- 1 現代の一般社会人が日常生活でよく目にする語を見出しとし、「は」「が」などの助詞や「れる」などの助動詞は、見出しに立てなかった。
- 2 親見出しと子見出し
 - a 親見出しは、現代仮名遣いで、和語・漢語は平仮名、外来語は片仮名で示した。
例 さくら こくさい アイス
 - b 複合語は、3音節以上の上位要素部分が見出しに立っている場合、その語の子見出しとして示した。
例 「桜狩り」は、「桜」の子見出し
「北回帰線」は、「北」の子見出しにはしない
 - c 連語は、原則としてその最初の構成要素の子見出しとして示した。
例 「汗の結晶」は連語で、「汗」の子見出し
 - d 句は、原則としてその最初の構成要素の子見出しとして示した。
例 「手を貸す」は句で、「手」の子見出し
 - e 子見出しは、▶の記号のあとに、～で親見出し該当部分を省略し、漢字仮名交じりで示した。漢字には振り仮名で読みを示した。
例 (さくら) ▶～狩り
(こうきょう) ▶～事業
(あせ) ▶～の結晶
(て) ▶～を貸す
- 3 見出しの配列
 - a 親見出しは、五十音順に配列した。
外来語の音引きは、ア行の仮名に読み替えて配列し、濁音・半濁音は清音のあと、拗音・促音は直音のあとに配列した。
例 ショーはショオの位置にくる
はい、ばい、ばいの順
きやく、きゃくの順
かつて、かつての順
 - b 子見出しは、親見出しのあとに追い込んで、～に続く部分の五十音順に配列した。
- 4 アクセント
 - a 見出しには、現在、最も普通に行なわれているアクセントを示した。ただし、接頭語・接尾語・語構成要素・連語・句にはアクセントを示さなかった。
 - b アクセントは、下がりめのある音節を小さな数字で示した。
例 あかとんぼ 3音節めに下がりめがあることを示す
みだし 下がりめがないので数字は示さない
- 5 表記 (表記については次のページを参照)
 - a 表記は、「現代仮名遣い」「常用漢字表」「送り仮名の付け方」に基づき、現在の最も普通の書き表わし方である表記を標準表記、それ以外の表記で慣用的に使われる表記を参考表記として分けて示した。
 - b 送り仮名は、「送り仮名の付け方」の本則と例外に従った送り仮名だけを示し、原則として許容の送り仮名は示さなかった。
- 6 見出しには品詞を表示した。名詞の用法だけしかない語、および句には表示を省略した。(記号一覧を参照)
- 7 意味・用法
 - a わかりきった意味の場合には、用例や対義語・類義語を示して説明の代わりとした場合がある。
 - b Ⅱの記号で、比喩的な意味や発展的な意味、文脈や場面などで限定された意味、特定の語とつながることによって現れる意味などを示した。

表 記

1 表記の示し方

この辞書では単に漢字での表記形を示すだけでなく、その語が実際にどのように書かれるかの情報をも示している。その際、ごく一般的に書かれる表記としての標準表記と、それ以外にも、ときとして用いられる参考表記とに分けた。標準表記、参考表記の識別のしかたは次の通り。

1 表記の一般的な示し方。

例 からだ[体](:[▽]身[▽]体)

「からだ」という見出しに対して、「体」が一般的な表記であり、「身体」は慣用的な表記であることを意味している。

[] で囲まれたものが標準表記で、() で囲まれたものが参考表記である。一般的に、見出し、[標準表記]、(参考表記) の順に並んでいる。ただし、多くの語では、

例 かんきょう[環境]

のように、参考表記がないのが一般的である。

2 [] で囲んだ表記形がない場合。

例 そっと(副) ①静かに。②…
ソフト soft
それ([▽]其れ)(代)

いずれも見出しの仮名書きそのものが標準表記であることを意味する。すなわち、「そっと」「ソフト」「それ」が標準表記である。

「それ」の場合は、「其れ」という表記は慣用的な表記であり、実際には仮名書きの「それ」が一般的だという意味である。

3 左のカッコ [] がない場合。

例 あいさつ、挨拶

標準表記を示す[] の左側の [] がない場合である。これは、「あいさつ」が、「挨拶」とも「あいさつ」とも書かれることを意味している。つまり、漢字書きも仮名書きも、ともに標準表記である。

4 : の付いている場合。

例 いちご : 苺 いのしし : 猪
からまつ : 唐松 (:[▽]落[▽]葉[▽]松) かもしか : ([▽]羚[▽]羊)
からころ : ⑧

: が付いているのは、見出し語が動植物、または、擬音語の場合である。動植物と擬音語は、文章の中で統一的に、片仮名で表記されることがよく行なわれる。: は片仮名書きの略号である。

しかしまた、動植物と擬音語は、平仮名で表記されることもあるし、動植物では、漢字書きもありうる。

つまり、上の例で、「いちご」の場合は、「イチゴ」のほか「いちご」「苺」という表記があることを示している。「からまつ」の場合は、「カラマツ」のほかに「からまつ」「唐松」という表記が一般的な表記で、「落葉松」は参考表記である。そして、「からころ」という擬音語は、「カラコロ」と「からころ」が標準表記である。

5 ①、②…や、①、②…ごとに表記形が示される場合。

例 あつ・いゝ(形) ①[熱い] ①⑧冷たい ②熱中している。
⑩[暑い] ③寒い
からて[空手] ①[唐手] 武術の一。②てゐら。③徒手
そな・える[備える](下) ①前もって・用意(準備)する。
②設備する。③([▽]具える) 身につけている。

意味の違いによって表記形が違ってくる場合である。

「あつい」の場合は、①の意味と⑩の意味とで「熱い」と「暑い」が使い分けられる。それに対して、「からて」の場合は、全般的に「空手」が

使われるが、①の意味では「唐手」も標準表記として使われることを示している。「そなえる」の場合も、「からて」と同様であるが、③の「具える」は参考表記である。

6 ダッシュ — の使われている表記の場合。

例 からあげ[唐揚げ・空—]
からオケ[カラ—]

ダッシュは同じ表記の省略を意味する。「からあげ」の場合は、「唐揚げ」と「空揚げ」が標準表記であり、「からオケ」は「カラオケ」が標準表記であることを示している。

7 コメント欄 *で説明を加えている場合。

例 ああ₁(感) ①嘆声の—。*嗚呼は文語的表記。②…
のみや₂[『呑み屋』のみ行為をする元じめ。*ノミ屋とも書く。

標準表記、参考表記以外の表記形に関する情報である。「ああ」の場合、標準表記は仮名書きであるが、コメント欄で、「嗚呼」と書く書き方もあるが、それは文語的な表記であることを述べている。また、「のみや」については、標準表記の「呑み屋」以外に、「ノミ屋」と書かれることもあるという情報を示している。

II 表記形を選ぶときの注意

新聞、教科書や公文書では、「現代仮名遣い」「送り仮名の付け方」「常用漢字表」の範囲内で表記を行なっている。表記は読みやすいことが最も大切であるから、できるだけ多くの人を読み慣れている、これらに従った表記を用いるのがよい。

そこで、この辞書では、標準表記については「現代仮名遣い」と「送り仮名の付け方」の本則と例外に従った書き方を採用するようにした。そして、漢字は、「常用漢字表」に存在するか否かを記号で示している。

この辞書を使って表記形を選ぶときの留意点を以下に述べる。

1 表記形が複数ある場合。

例 しゅのう[首脳](主脳) しょう[『背』負う]
じゅんぼう[遵法・順法] じょうぶ 丈夫

「しゅのう」「しょう」のように標準表記と参考表記がある場合は、標準表記を選べばよい。すなわち、「首脳」「しょう」を選ぶ。また、「じゅんぼう」「じょうぶ」のように標準表記が複数ある場合は、どちらを選んでよい。

2 標準表記の漢字に『や、『の記号がついている場合。

例 せっこう[石[『]膏]
せっけん[席[『]巻・席[『]捲]

漢字に記号「『」がついているのは「常用漢字表」にない漢字を意味し、記号「『」がついているのは、「常用漢字表」には含まれているが、その音訓がないことを意味している。

標準表記にそれらの記号が付いている場合も、基本的にはその標準表記を選べばよい。ただし、場合によっては少し配慮を加える必要があるときもある。たとえば、公用文での表記、あるいは教育的配慮を必要とする表記ならば、「『」「『」がついた漢字は、仮名書きにしたり振り仮名をつけたりするのがよい。つまり、「石[『]こう」「席[『]けん」や「石[『]膏」「席[『]巻」と書くのがよい。

3 子見出しの場合。

例 かねもち₁[金持ち] お金をたくさん持っている人。▶〜『喧嘩[『]
せず 金持ちは利にさどく、…
cf. けんか₂『喧嘩]

子見出しで、漢字でも仮名でも書かれる語の部分は、多く漢字で表記してある。たとえば、「けんか」については、漢字で示している。実際の表記の際には、その点を考慮されたい。

記号・略語一覧

記号一覧

- ・ 動詞・形容詞などの活用語尾を示す
- ˊ ˋ … アクセントを示す
- [] 標準表記を示す
- () 参考表記を示す
- ▼ 直後の漢字が常用漢字以外の漢字であることを示す
- ㄱ 直後の漢字が常用漢字で、「常用漢字表」に示されている音訓以外の音訓であることを示す
- ゝ ぁ ぁゝ あて字・熟字訓であることを示す
- ゝ その語のカタカナ表記が標準表記であることを示す
- ▶ ～ 子見出しの始まりを示す
- ▶ 親見出しの用例
- ▷ 子見出しの用例
- ～～ 見出し該当部分などの省略を示す
- || 比喩的な意味や発展的な意味を示す
- ◇ これ以下に示す情報が◇の前の全体にかかることを示す
- * 用法の補足的な説明や注記などを示す
- (=) 用例などの補足的な説明
- ↑・↓ 解説文が上または下の行に続くことを示す

略語一覧

- 中 原籍が中国語であることを示す
- 朝 原籍が朝鮮語であることを示す
- 日 日本で外国語にならって作られた語であることを示す
- (五) 五段活用の動詞 (下) 下一段活用の動詞
- (上) 上一段活用の動詞 (カ) カ行変格活用の動詞
- (サ) サ行変格活用の動詞および複合サ変の動詞
- (ダ) 形容動詞 (形) 形容詞
- (副) 副詞 (体) 連体詞
- (接) 接続詞 (代) 代名詞
- (感) 感動詞 (助) 助詞
- (助動) 助動詞 (連) 連語
- ㉑ 語構成要素
- ㉒ 接頭語 ㉓ 接尾語
- ㉔ 擬音語 ㉕ 擬態語
- (と副) 「と」が付いて副詞として使われることを示す
- (と副) 「と」が付くか、あるいは「と」が付かずに副詞として使われることを示す
- (形名) 形式名詞 (補助) 補助動詞
- (文) 文章語 (仏) 仏教語
- (俗) 俗語 (哲) 哲学の用語
- (旧) 今では使わない表現 (法) 法律の用語
- (古) 古語
- ㉖ 対義語 ㉗ 類義語 ㉘ 派生語
- ㉙ 名詞が見出しの場合、その動詞形
(動詞が見出しに立っていない場合だけ)

類似の表現の記述が連続する場合、-と()を組み合わせ、下に示すように、記述を合併して示した。

- 例 …する-こと(人) → 「…すること」と「…する人」の合併
- …する役(-の人) → 「…する役」と「…する役の人」の合併
- (遠くへ)投げる → 「遠くへ投げる」と「投げる」の合併
- …する(-重い)もの → 「…するもの」と「…する重いもの」の合併

あ(感) ああ。
 あ[亜] ①アジア。*亜細亜から。②準じる。▶～熱帯
 ああ(副) あのように。▶～した(=あのような)
 ああ(感) ①嘆声の一。*嗚呼は文語的表記。②肯定・承知・受け答えの語。▶～、そう
 ③呼びかけの語。▶～、きみきみ ◇*「あ」とも、/②は目上に使うと失礼。
 アーカイブ archive ①デジタルデータ化した大規模な資料。②コンピューターで、複数のファイルをもとめること。また、そのためのデータの圧縮技術。
 アーガイル argyle 洋服で、ひし形模様。
 アーキテクチャー architecture ①建築(学)。②コンピューターの基本構造。
 アークとう [一灯] 電灯の一。2つの電極間で弓形の光を発する。*アークは弧の意。
 アークード arcade ①商店街で、日よけ・雨よけの屋根をつけた道。②大建造物で、丸い天井をもつ通路。
 アース earth ①電気機器と大地を結ぶこと。また、そのコード、接地線。*大地・土の意。▶～カラー。～color 大地の色。茶系統の色。
 アーチ arch ①建築の構造で、弓形(～の門)。②野球で、ホームラン。▶～をかける
 アーチェリー archery 洋弓(～術)。また、その競技。「アルチザン」
 アーティスト artist 芸術家。アーティスト。⑧
 アーティチョーク artichoke 西洋野菜の一。つぼみを食べる。チークセンアザミ。
 アーティフィシャル artificial (タ) 人工的、技巧的。⑧ナチュラル
 アート art ①芸術。美術。②アート紙。▶～紙。つやのある上質紙。▶～シアター。～theater 芸術映画専門の劇場。▶～ディレクター。～director ①演劇の美術監督。②広告美術の専門家。
 アーバン urban ⑧ 都会の。▶～ライフ
 アーベント Abend 夜に催す音楽会(映画会)。…の夕べ ▶～シヨパン。*夕方方の意。
 アーミー army 軍隊。特に、陸軍。▶～ルック。～look 兵士風の服装。
 アーム arm ①腕。②うで状のもの。▶～ミシンの。▶～チェア。～chair ひじ掛けいす。▶～ホール。～hole 洋服のそでぐり。
 アーメン amen (感) キリスト教で、祈りなどの後に唱える語。*確實・まこととの意。
 アーモンド almond バラ科の小高木。実は菓子・料理の材料や薬用に。
 アーリア人 [一人] インドヨーロッパ語族の人々。*アーリアは梵語で高貴の意。
 アール are ⑧ 面積の単位の一。100m²。
 アール art ▶～デコ。～déco 装飾美術の様式の一。*1920年代に流行。▶～ヌーボー。～nouveau 建築・工芸の新様式。*20世紀初頭、フランスで流行。
 アールエイチいんし [Rh 因子] 血球中の因子の一。*その有無によって Rh+ と Rh- に分けるのが Rh 式血液型。

ああん ①(感) 嘆声の一。ああ。②(と) 副(と) 泣いたり、口を開けたりするようす。
 あい[相] ①一緒に。▶～乗り ②互いに。▶～知る ③語調を整える。▶～成らぬ
 あい[合] 合い着。合い服。
 あい[愛] ①かわいがり大切に思うこと(心)。②恋。▶～の結晶(連) 愛し合う男女の、子供。▶～の(連) 愛するがゆえにとる厳しい態度。
 あい「藍」 ①タデ科の一年草。②アイの葉や茎から採る染料(～の色)。藍色。
 アイ eye 目。②目に似たもの。▶カメラ～
 あいあい[さ] [相合い傘] 1本の傘を男女ふたりでさすこと。
 アイアン iron ボールを打つ部分が鉄製のゴルフクラブ。*鉄の意。⑧ウッド
 あいれな・しい [相「容れない」] (形) 互いに一致しない(受け入れない)。
 あいいろ [「藍色」] 濃い青色。インジゴ。
 あいりん [合印] 書類や帳簿で、照合のしるしに押す印。合判。
 あいりん [愛飲] (名) 特定の嗜好飲料を日ごろから好んで飲むこと。
 あいうち [相打ち・相討ち・相撃ち] 両者が同時に打ち合うこと。②あいこ。
 あいえんか [愛煙家] タバコが好きな人。
 あいえんきえん [合縁奇縁] 男女の気が合う合わせは、みなふしぎな縁による。
 あいおい [相生い] ①同じ木の根から2本の幹が生長すること。▶～の松 ②夫婦が共に長生きすること。*「相老い」の意。
 あいか [哀歌] 悲しい思いの歌。エレジー。
 あいがかり [相懸かり] ①将棋の序盤で、双方が同様の駒の組みで対すること。②敵味方が同時に互いに攻め合うこと。
 あいかげ [合「鍵」] その鍵に合う別の鍵。
 あいかた ①[相方] ①相手。②(「敵」唱) (遊里で)客の相手の遊女。③[合方] ①能で、はやし(～方)。②歌舞伎で、せりふに合わせで入れる三味線。「えるカメラ」
 アイカメラ eye camera 眼球の動きをとら
 あいがも [「間」・「合」] マガモとアヒルとの雑種。食用。「様」
 あいかわらず [相変わらず] (副) 以前と同じ
 あいかん [哀感] もの悲しい感じ。
 あいかん [哀歌] (文) 悲しみと喜び。
 あいがん [哀願] (名) 哀れっぽく頼むこと。
 あいがん [愛「玩」] (名) 大切にしておわいがること。▶～動物
 あいぎ [合「着」・「間着」] ①上着と下着との間に着る衣服。②合い服。
 あいぎどう [合気道] 武道の一。護身術が目的で、関節が中心。
 あいきやく [相客] 同席(同室)の客。
 アイキャッチャー eye-catcher 広告で、人目をひくデザイン。
 あいきょう [愛「敬」・愛「嬌」] ①にこやかでかわいこと。②あいそ。▶～をふりまく
 あいきょうげん [「間」狂言] 能で、狂言師が演ずる部分。

あ

あいくち 合口・「ヒ・首」 つばのない短刀。
 ＊その長さから九寸、五分ともいう。
 あいくち〔合口〕 相性。▶～が無い
 あいくるしい〔愛くるしい〕 併用。まじけなく（かわいらしい）。
 あいけん〔愛犬〕 かわいがっている犬。また、犬をかわいがること。▶～家
 あいこ（相子） 勝負なし。◎ひきわけ
 あいこ〔愛顧〕 ①引き立てること。ひいき。▶～をいただく ◎恩顧
 あいご〔愛護〕 ①かわいがり大事にすること。
 あいこう〔愛好〕 ①愛し好むこと。▶～者
 あいこう〔愛校〕 自分の学校を愛すること。▶～心
 あいこく〔愛国〕 母国を愛すること。
 あいことば〔合言葉〕 ①仲間を確認する合図の言葉。②主義や主張を示す標語。
 あいごま〔間駒〕 将棋で、防御のために打つ駒。あい。▶～がきく
 アイコン icon コンピューターの画面に表示される、プログラムや文書などを示す絵文字。＊アイコンから。
 アイコンタクト eye contact 視線を合わせて意志を通じること。
 あいさい〔愛妻〕 妻を愛し大切にすること。また、その妻。▶～家
 あいさつ、挨拶 ①「こんにちは」や「さようなら」などの言葉。②会合や集会の儀礼的な言葉（を述べること）。▶就任の～ ③うけたえ。▶～に困る ④ ㊦ごあいさつ ▶～代わり。交際のための、あいさつの代わりとなるもの（品物）。
 あいし〔哀史〕 悲しい歴史（物語）。
 あいじ〔愛児〕 かわいがっている自分の子供。
 あいしあう、愛し合う ⑤ 互いに愛する。
 あいしゃ〔愛車〕 愛用の自動車（オートバイ）。
 あいじゃく〔愛着〕 ① あいちゃく。
 アイシャドウ eye shadow 目の周りに塗って、目元を引き立たせる化粧品。
 あいしゅう〔哀愁〕 やるせない悲しみ。
 あいしよ〔愛書〕 ①本が好きなこと。▶～家 ②愛読書。 「こと。
 あいしょう〔哀傷〕 ① 悲しみに心をいためる。②
 あいしょう〔相性〕 ふたり（男女）の気性が合うこと。
 あいしょう〔愛称〕 ニックネーム。あだ名。
 あいしょう〔愛唱〕 ① 愛唱。② 好んで口ずさむこと。▶～歌。好んで歌う歌。
 あいじょう〔哀情〕 悲しい気持ち。
 あいじょう〔愛情〕 愛する気持ち。
 あいじょう〔愛嬢〕 ① 文。まなむすめ。＊他人の娘について。◎令嬢 ◎愛息
 あいじん〔愛人〕 ①恋人。②情人。
 アイシング icing ①アイスホッケーの反則の一。アイシング ザ バック。②患部を氷で冷やすこと。
 あいず〔愛す〕 ⑤ あいする。
 アイス ice ①こおり。②アイスクリーム・アイスキャンデーの略。③高利貸しの俗称。＊氷菓子と同音から。▶～キャンデー。日～candy 棒状の氷菓子。▶～キューブ。～cube 角氷。▶～クリーム cream 冷たい乳製品の。▶～コーヒー coffee 冷たいコーヒー。▶～ショー show アイススケートによるショー。▶～スケート ice skating から。▶～スマック smack チョコレートで包んだアイスクリーム。スマック。▶～ダンス ice skating の種目の。男女のペアで踊る。＊ice dancing から。▶～ティー tea 冷たい紅茶。▶～ピック pick 氷を割る鋏。▶～ペール pail 氷入れ。▶～ボックス box 氷で冷やす（携帯用の）冷蔵庫。▶～ホッケー hockey 氷上でスケートをはいてするホッケー。1チーム6人。▶～ミルク milk ①冷たい牛乳。②アイスクリーム状食品の一。＊乳固形分10%以上、乳脂肪分3%以上。
 あいず〔合図〕 ① 前もって決めたサイン。
 アイスバーン Eisbahn 積雪の表面が氷のようになった状態。 「しみを感じる。
 あいすべき〔愛すべき〕 ① かわいくて親。
 あいする〔愛する〕 ① ①かわいがり大切に
 あいせき〔合席・相席〕 ① ①飲食店で他の客と同席すること。 「惜しむこと。
 あいせき〔哀惜〕 ① ①（文）人の死などを悲しみ。
 あいせき〔愛惜〕 ① ①愛して大切にすること。 ②おしむこと。▶落花に対する～
 あいせつ〔哀切〕 ① ①（名・タ）哀れで悲しいこと。
 あいせん〔相先〕 碁や将棋で、互い先。
 あいぜん〔愛染〕 ① ①愛欲の煩悩にとらわれること。▶～明王 ②
 アイゼン 登山靴につけるすべり止めの金具。＊Steigeisen から。
 あいぜんこして〔相前後して〕 ① ①（連）次々に。
 あいそ〔哀訴〕 ① ①涙ながらに訴えること。
 あいそ〔愛想〕 ① ①人当たりがよいこと（言葉）。 ②もてなし。▶何の～もない ③ ㊦おあいそ ◎＊「あいそう」の転 ▶～が尽きる いやげがさす。▶～がな～い 人当たりが悪い。▶～も尽かす。いやになって、見捨てること。▶～もこそも尽き果てる まったくきらいになる。▶～笑う ④ ④相手にへつらうつくり。
 あいそう〔愛想〕 あいそ。 「笑い。
 あいそう〔愛憎〕 愛と憎しみ。
 あいそう〔愛蔵〕 ① ①大切にしまっておくこと。 ▶～版
 あいそく〔愛息〕 ① ①（文）かわいがっている息子。＊他人の息子について。◎令息 ◎愛嬢
 アイソタイプ isotype 絵文字言語。＊international system of typographic picture education の略。/オーストリアのオットー・ノイラートが開発。
 アイソトープ isotope 同位体、同位元素。
 あいた〔開いた〕 ▶～口がふさがらな～い あきれてものも言えない。
 あいだ〔間〕 ① ①時間・空間のへだたり。また、その範囲。②なか。▶木立ちの～ ③関係。▶親子の～ ▶～柄 人と人との関係。▶～に立っつ 仲介する。
 アイターン I turn ① ①（名）都会出身者が地方で就職、定住すること。＊Uターンのもじり。
 あいたい〔相対〕 差し向かい（対等）で物事をする。▶～尽く 互いに承知（相談）の上ですること。
 あいたいする〔相対する〕 ① ①互いに向かい合う。②対立する。
 あいたしゅぎ〔愛他主義〕 他人の利益と幸

上をすべるスケート。＊ice skating から。▶～スマック smack チョコレートで包んだアイスクリーム。スマック。▶～ダンス ice skating の種目の。男女のペアで踊る。＊ice dancing から。▶～ティー tea 冷たい紅茶。▶～ピック pick 氷を割る鋏。▶～ペール pail 氷入れ。▶～ボックス box 氷で冷やす（携帯用の）冷蔵庫。▶～ホッケー hockey 氷上でスケートをはいてするホッケー。1チーム6人。▶～ミルク milk ①冷たい牛乳。②アイスクリーム状食品の一。＊乳固形分10%以上、乳脂肪分3%以上。
 あいず〔合図〕 ① 前もって決めたサイン。
 アイスバーン Eisbahn 積雪の表面が氷のようになった状態。 「しみを感じる。
 あいすべき〔愛すべき〕 ① かわいくて親。
 あいする〔愛する〕 ① ①かわいがり大切に
 あいせき〔合席・相席〕 ① ①飲食店で他の客と同席すること。 「惜しむこと。
 あいせき〔哀惜〕 ① ①（文）人の死などを悲しみ。
 あいせき〔愛惜〕 ① ①愛して大切にすること。 ②おしむこと。▶落花に対する～
 あいせつ〔哀切〕 ① ①（名・タ）哀れで悲しいこと。
 あいせん〔相先〕 碁や将棋で、互い先。
 あいぜん〔愛染〕 ① ①愛欲の煩悩にとらわれること。▶～明王 ②
 アイゼン 登山靴につけるすべり止めの金具。＊Steigeisen から。
 あいぜんこして〔相前後して〕 ① ①（連）次々に。
 あいそ〔哀訴〕 ① ①涙ながらに訴えること。
 あいそ〔愛想〕 ① ①人当たりがよいこと（言葉）。 ②もてなし。▶何の～もない ③ ㊦おあいそ ◎＊「あいそう」の転 ▶～が尽きる いやげがさす。▶～がな～い 人当たりが悪い。▶～も尽かす。いやになって、見捨てること。▶～もこそも尽き果てる まったくきらいになる。▶～笑う ④ ④相手にへつらうつくり。
 あいそう〔愛想〕 あいそ。 「笑い。
 あいそう〔愛憎〕 愛と憎しみ。
 あいそう〔愛蔵〕 ① ①大切にしまっておくこと。 ▶～版
 あいそく〔愛息〕 ① ①（文）かわいがっている息子。＊他人の息子について。◎令息 ◎愛嬢
 アイソタイプ isotype 絵文字言語。＊international system of typographic picture education の略。/オーストリアのオットー・ノイラートが開発。
 アイソトープ isotope 同位体、同位元素。
 あいた〔開いた〕 ▶～口がふさがらな～い あきれてものも言えない。
 あいだ〔間〕 ① ①時間・空間のへだたり。また、その範囲。②なか。▶木立ちの～ ③関係。▶親子の～ ▶～柄 人と人との関係。▶～に立っつ 仲介する。
 アイターン I turn ① ①（名）都会出身者が地方で就職、定住すること。＊Uターンのもじり。
 あいたい〔相対〕 差し向かい（対等）で物事をする。▶～尽く 互いに承知（相談）の上ですること。
 あいたいする〔相対する〕 ① ①互いに向かい合う。②対立する。
 あいたしゅぎ〔愛他主義〕 他人の利益と幸

あ

る。⑧離れる ②あてはまる。▶基準に〜 ③ひきあう。▶割にあわない ④⑧ 互いに…する。▶話し〜 ⑩[会う] ⑪[逢う] ①対面する。②偶然であう。③[遭う] ④[遇う] 経験する。▶災難に〜 *多く好ましくない場合に使う。▶(会う)は別れの始め 会うことは、別れるという運命の前提である。

アウェー away サッカーなどで、相手チームの本拠地で行なう試合。⑧ホーム

アヴェマリア ⇒ アベマリア

あうせい [逢う瀬] おうせ。

アウト out ①① テニスや卓球で、球が線外に出ること。②ゴルフで、前半の9ホール。③④ イン ⑤野球で、打者・走者がその権利を失うこと。⑥セーフ ⑦⑧ 外の、外側の。▶〜コーナー ▶〜オブデュート。▶〜of-date (名・ダ) 時代(流行)おくれ。⑨アップツートート ▶〜オブバウンズ。▶〜of bounds 球技で、ボールがコート(競技区域)外へ出ること。▶〜コース。▶〜course ①競走で、外側の走路。②野球で、アウトコーナー。③④インコース ▶〜コーナー。▶〜side corner 野球で、外角。アウトサイド。⑤インコーナー ▶〜サイダー。▶〜sider 局外者。▶〜サイド。▶〜side ①外側。②球技で、ラインの外側。③④インサイド ▶〜ソーシング。▶〜sourcing ①業務の外部委託。②海外部品調達。▶〜ドアー。▶〜door 戸外。④インドア ▶〜ブット。▶〜put (名) 出力。⑤インプット ▶〜ボクシング。▶〜boxing ボクシングで、相手から離れて攻撃する戦法。⑥インファイト ▶〜ライン。▶〜line ①輪郭。②概要。▶〜レット。▶〜let 余った在庫品を安売りする(=直販)店。アウトレットストア。▶〜ロー。①①〜law 無法者。②②〜low 野球で、外角低め。

アウトバーン ① Autobahn ドイツの自動車専用的高速道路。

アウフヘーベン ① aufheben (名) 弁証法で、上揚。*哲学者ヘーゲルによる。

あうん [阿] ①口を開いて出す「あ」の音と口を閉じて出す「うん」の音。|| 呼吸。②一方は口を開き、一方は口を閉じる仁王やこま犬の相。③*梵語の音訳。▶〜の呼吸(連) ふたりで一緒に動作をする際の気合い。また、それが一致すること。

あえか [ダ] (文) かよいようす。

あえく [喘ぐ] (五) 苦しうに呼吸する。|| くるしむ。▶借金に〜 ⑧〜ぎ

あえて [敢えて] (副) ①わざわざ。②(否定表現の中で)必ずしも。▶〜反対しない

あえな [い] [敢え無い] (形) あつけない。▶〜最期

あえもの [和え物] あえた料理。

あえる [和える] (下) 材料にみそ・酢などをまぜて調理する。

あえん [亜鉛] 金属元素の一。トタン板や合金用。*記号 Zn

あお [青] ①① 空色。②緑色。▶〜信号 ④馬で、青みがかったつやのある黒色。また、その馬。⑤⑥ 未熟な。▶〜二オ ▶〜は「藍」より「出」で「藍」より青し 出藍の誉れ。

あおあお [青々] (と副) いかに青いようす。

あおあらし [青嵐] (文) 青葉のころのさわや

かな風。せいらん。⑧薫風

あおい [葵] アオイ科の植物。▶〜の紋(連) 紋章の名。特に、徳川家の紋所の三つ葉葵。

あお・い [青い] [蒼い] (形) ①青色である。②顔色が悪い。③未熟である。▶考えが〜 ⑧〜さ ▶〜鳥 身近なところにあるのに気がない幸福。*童話の題名から。

あおいきといき [青息吐息] 困りはてたようす。

あおいる [青色] ▶〜申告 ①所得税や法人税を申告する制度の一。*青色の用紙を使う。/主に事業所得に適用。▶「海、

あおうなばら [青海原] 青々とした広い

あおうま ① [青馬] 青みがかった黒い毛の馬。

② [白馬] 白またはあし毛の馬。▶〜の節会 ③ (=古く宮中の行事で、正月7日に行なった)

あおうめ [青梅] 熟していないウメの実。

あおえんどう [青豌豆] グリンピース。

あおがい [青貝] 螺類に使う貝。

あおかび [青微] 青緑色のカビ。ペニシリンの材料。

あおき [青木] 庭木の一。ミズキ科。

あおぎ・みる [仰ぎ見る] (上) 上の方を見る。|| 敬う。

あおぎり [青桐・梧] アオギリ科の落葉高木。街路樹などに使われる。ごどう。

あおく [青く] ▶〜な・る 心配などのため青さめる。

あお・く [仰く] (五) ①上を向く。②尊敬する。▶師と〜 ③教えなどを請う。▶指導を〜 ④(毒などを)一息に飲む。

あお・く [扇く] (五) ①風をおこす。

あおくさ [青草] 青々とした草。

あおくさ・い [青臭い] (形) 青草のようなにおいがする。|| 未熟。▶〜考え ⑧〜さ

あおコーナー [青一] ボクシングなどの選手権試合で、挑戦者側のコーナー。④赤コーナー

あおさ [石] ① [石] ② 緑藻類の海藻。飼料用。▶「衣服。

アオザイ ① ao dai ベトナム女性の伝統的

あおざかな [青魚] 背が青い魚。*サバ・イワシ・サンマなど。▶「くなる。

あおざ・める [青さめる] (下) 顔色が青白

あおじそ [青紫] ① シソの一。*さしみのつまに使う。

あおじゃしん [青写真] 設計図などを青地に白く焼きつけた写真。|| 将来の計画。

あおしろ・い [青白い] (形) ①青みがかった白。②血の気がないようす。

あおしんごう [青信号] 「進め」「安全」を示す交通信号。④赤信号 ▶「怒る。

あおすじ [青筋] ▶〜を立・てる ひどく

あおせん [青線] 青線区域の略。もと、無許可で売春を行なった特殊飲食店街。④赤線

あおそこひ [青底] ① 緑内陣。

あおぞら [青空] ① 青く晴れた空。②③ 屋外での。▶〜駐車 ▶〜教室 ④ 屋外での授業(研修)。

あおた [青田] まだ実らない稲田。▶〜買がい ①青田売買。④青田売り ②企業などが、卒業前の学生と早い時期から入社契約を結ぶこと。▶〜刈り 青田買い。▶〜売買 ③ 収穫高を予想して青田のうちに売買す

あ

あかせん〔赤線〕もと、売春目的の特殊飲食店街のあった地域。⑧青線

あかだし 赤・出汁 赤みそを使った・魚肉汁(みそ汁)。

あかちや・ける〔赤茶ける〕(下) 日にやけ、色あせて赤みがかった茶色になる。

あかちゃん〔赤ちゃん〕赤ん坊の愛称。▶～言葉。幼児語。

あかチン〔赤ー〕マキユクロムの俗称。

あかつき 暁 夜明け方。Ⅱ(希望が実現した)その時。▶当選の～には ▶～月。月のない明け方(ーの闇)。

あがつたり〔上がつたり〕商売や事業が不振なこと。▶商売が～だ

あかつち〔赤土〕鉄分を含む赤黄色の粘土。

アカデミー academy ①学問・芸術の研究指導団体。*プラトンがアテネ郊外に創設した学園の名から。/学士院は訳語。②大学・研究所などの総称。▶～賞。アメリカ映画の権威ある賞、オスカー。

アカデミズム academism 学問至上主義。Ⅱ学問・芸術上の伝統(権威)主義。

アカデミック academic (ダ) ①学問的。②学風や芸術が保守的なようす。

あかてん〔赤点〕(俗)落第点。*成績表に赤字で記入する習慣から。

あかとんぼ 赤・蜻蛉 ① : 小形で赤いトンボ。②旧日本軍の複葉の飛行機。

あがな・う (五) ①「買う」買い求める。Ⅱ「贖う」埋め合わせをする。▶金で罪を～ ⑧～い

あかなす 赤・茄子 トマトの別称。

あかぬけ〔垢抜け〕(名) あかぬけること。

あかぬ・ける〔垢抜ける〕(下) 洗練される。⑧～け

あかね〔茜〕① : アカネ科のつる草。②アカネから採る染料(ーの暗赤色)。あかね色。

あかの〔赤の〕▶～他人(連) まったく関係のない人。▶～飯。あかまんま。

あかはじ〔赤恥〕人前でかく大恥。

あかはた〔赤旗〕①共産党・労働者を表す旗。*フランス革命での血染めの旗から。②危険・停止信号の旗。③平家の旗。

あかはだ〔赤肌・赤・膚〕むけて赤くなった肌。Ⅱ▶～の山(はげ山)

あかはだか〔赤裸〕まるはだか。

あかはら 赤腹 ①ツグミ科の小鳥。②(俗)イモリ。③(俗)ウグイ。

あかびかり〔垢光り〕(名) 着物などが汚れて垢で光ること。

あかふさ〔赤房〕相模で、土俵上の屋根の南東の隅にたらしした赤色の房。⑧青房・白房・黒房

あかふだ〔赤札〕商品につけて、特価品・見切り品・売約済みなどを示す赤い札。

アガペー agape キリスト教で、神の愛。⑧エロス

アカペラ a cappella 無伴奏(ーの合唱曲)。

あかぼう〔赤帽〕①赤い運動帽。②駅で手荷物を運ぶ人。*目立つように赤い帽子をかぶっていた。⑧ポーター

あがほとけ〔吾が仏〕▶～尊を。自分が尊んでいるものだけを尊いとする。狭い心。

あかまいし〔赤間石〕山口県産の赤褐色の石。すり石・庭石用。

あかまつ 赤松 マツのー。樹皮が赤い。*この松林にマツタケが生える。

あかまんま〔赤・飯〕①赤飯。② : イヌダシの別称。あかのまんま。 「がさす

あかみ〔赤み・赤味〕赤い色(ーの程度)。▶～

あかみ〔赤身〕①獣肉・魚肉の赤い部分。⑧白身 ②材木の中心の赤い部分。心材。⑧白太。 「白みそ

あかみそ〔赤味噌〕赤褐色のみそ。辛口。⑧

あかむけ〔赤・剥け〕赤はだ(ーになること)。

あかめいも 赤芽芋 サトイモの一種。

あか・める〔赤める〕(下) 赤くする。

あが・める〔崇める〕(下) 尊敬する。

あかもん〔赤門〕①朱塗りの門。②(俗)東京大学。*赤い門がある。

あからがお〔赤ら顔〕赤みを帯びた顔。

あからさま (ダ) おおっぴら。

あから・む〔赤らむ〕(五) 赤みがかかる。

あから・む〔明らむ〕(五) 空が明るくなる。

あから・める〔赤らめる〕(下) 赤くする。

あかり〔明かり〕①光。②灯火。▶～先 光のさしてくる方。▶～障子。ふつうの障子。▶～取。光をとり入れる窓。

あがり 上がり ①①(「騰がり」) あがる(のぼること)。⑧下がり ②収益。▶店の～ ③できあがり。▶一丁。④以前の状態が終わって間もないこと。▶病氣(役人)～ *低い地位であった場合は軽蔑の意を含む。▶～

「階段」家の上がり口の横木。▶～口 階段や座敷に上がる(上がってすぐの)所。あがり

くち。▶～込・む(五) (家に)上がってすわ

る。▶～端 座敷の上がり口。▶～花 いた

れたばかりのお茶。▶～目 ①目じりの上

がった目。②物価などの上がり始めのとき。⑧

下がり目 ▶～物 ①神仏へのお供え。②

召し上がり物。③田畑の収穫物。▶～湯

ふろから出るときに浴びる湯。

あが・る 上がる・揚がる ①(五) ①高くなる。

⑧のぼる ⑨さがる・おる Ⅱ▶ふろから～/

降(部屋へ) ②よくなる。▶成績が～ ③さ

がる ③現れる。▶効果が～ Ⅲ▶声が～(=わき

あがる) ④行くの謙譲語。⑤ポーッとなる。⑥

終わる。▶仕事か～ Ⅳ…ですむ。▶5万円で

～ ⑦飲食するの尊敬語。⑧⑧ ①…し終わ

る。▶焼き～ ②すっかり…する。▶のぼせ～

⑧～り

あが・る 挙がる ①(五) ①高い方に移る。▶手

が～ ②知られるようになる。▶名(証拠)が～

③犯人がつかまる。

あかる・い〔明るい〕(形) ①▶～電灯 ②はが

らかだ。Ⅱ期待できる。▶～未来 ③よく知っ

ている。▶歴史に～ ④④暗い ⑧～さ

あかるみ〔明るみ〕明るい所。Ⅱ▶～に出る(=

公になる)

あかる・む〔明るむ〕(五) 明るくなる。

あかんたい〔亜寒帯〕温帯で、寒帯に近い地

帯。⑧亜熱帯

あかんべえ (名・感) 下まるとの裏の赤い所を

出すしくさ(ーをして言う語)。あかんべ。*軽

蔑・拒否を表わす。/アカンベーとも書く。

あかんぼう〔赤ん坊〕生まれてまもない子供。

ベビー。

あかんぼく〔亜・濃木〕亜低木。

あき 明き・空き ①あいていること(所・時間)。

あき〔秋〕四季の一。*9～11月、旧暦で7